

神奈川県立鎌倉養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和3年度 神奈川県立鎌倉養護学校第2回運営協議会		
開催日時	令和3年10月28日(木) 午前9時30分～午前11時00分		
開催場所	会議室		
出席者	委員：9名 事務局：6名		
次回開催予定日	令和4年2月17日(木) 午前9時30分～午前11時00分		
問い合わせ先	神奈川県立鎌倉養護学校 副校長 佐藤 浩栄 電話番号 0467-45-1951 ファックス番号 0467-43-4808		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	<p>1 学校長挨拶</p> <p>2 学校運営協議会各部会報告について</p> <p>(1) 切れ目ない支援部会から(パワーポイントで説明)</p> <p>○「学校が抱えている課題」として、「行政内での連携等」などがあげられる。保護者が行政や福祉とつながるように、まずは学校が道筋をつけて保護者に依頼する。保護者が難しそうであれば、学校で会議を開く等方策を考える。</p> <p>○「在学中」「社会にでていく時」のコーディネートはそれぞれ校内の「支援班」「進路班」が行っているが、在学中の課題がそのまま(解決せず)卒業後も引き継がれてしまっている。</p> <p>○「就労の状況」については、企業就労は進んでいるが、コロナ禍で「実習日数が減る」等なかなか実習に行くのは難しく、限られた経験の中で就労を考えていくことになっている。就労後に「定着」するかどうか不安である。</p> <p>○行政側に寄せられる相談内容は、学校側の相談内容と同じで、一つのサービスだけでなく、様々なサービスを組み合わせることが大切である。</p> <p>○保護者の一番の心配は、コロナなどの時に預かってもらえないところがないこと。また、親の会に入らない保護者がいるなど、保護者同士のつながりが少ないことも課題としてあげられる。</p> <p>○今後必要なことは、「学校、地域、保護者が社会を変えていく」こと。それぞれが連携を取りながらアクションを起こすことが大切である。次回は、「鎌倉養護で取組んでほしいこと」を話し合う。</p> <p>【質疑応答】</p> <p>Aさん：「在学中の課題」とはどういうことがあるか。</p> <p>A教諭：例えば、「つなげたいのにつなげられない」ということ。卒業後のグループホームが見つからずに卒業してしまうなどが挙げられる。</p> <p>Bさん：社会資源は限られている。どこかに足がかりを作って具体的に「ここにつながっている」ということが必要である。</p> <p>教頭：学校と社会はバトンを渡す関係ではなくて、お互いが重なりあり、重なる部分が一緒に考えて行く・連携関係をもつことが必要であ</p>		

る。

(2) 福祉避難所運営部会から（パワーポイントで説明）

- 今年度大切しているのは、「顔の見える関係づくり」をしていこうということ。
- 「学校」が福祉避難所として心配していることは、「どんな方々が避難してくるのか」予測できないこと。
- 「地域」から見た場合、鎌倉養護学校をどのようにとらえているのかわからない。
- 「DIG 災害図上訓練」を学校職員のみで行った。コロナ禍以前は、地域の方も一緒に行っていた。
- 「玉縄地区災害コア会議」は、10/16(土)に鎌倉養護学校で行われ、地域の方が25名参加された。パワーポイントを使い、鎌倉養護の紹介をした。その後、(避難所としての)提供スペースと鎌倉市から支給されている発電機などの見学を行った。地域の方からは、「イメージがわいた」という話をいただいた。
- 「避難訓練」については、11/1(月)に鎌倉養護学校で行われるものを、地域の方に参観していただく計画で、「鎌倉養護には“こういう子供たちがいる”のを見てもらいたいと思っている。
- 「今後取り組みたいこと」として、地域の方となにか一緒にできることを模索していきたい。

3 令和3年度学校評価中間報告について（副校長が説明）

(1) 令和3年度学校評価中間報告について

- 今までは、達成状況を文章で書いていたが、今年度は「1～4」の数値で表すようにした。内容は「1：計画案を作成中」「2：計画案を作成済み」「3：計画を実行中」「4：計画通りすべて実施済み」
- 評価については、例えば研修等は「実施した」だけでは不十分。「それをどう活用できたか」が重要で、職員向きにアンケートを実施する予定でいる。

(2) 人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト

- 学校では、「お子さんが楽しく学校に行っていると感じますか」を100%にすることを目標にしている。教員は、このアンケート結果をもとにして、日々の授業に生かしてもらいたい。この結果について、教員には9月に発表している。同様のアンケートを12月にまた実施する。

(3) 研修評価について

- 昨年度提案していただいた研修会実施後のアンケート結果です。研修会は実施するだけでなく、その研修をどう生かしていくかが重要である。
- 評価を点数化することで、研修の見直し等を行っていく。

【質疑応答】

- Cさん：「人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト」について。本人と一対一の関係だけだと、「本当の本人の意向なのか」心配である。意思決定には「チームアプローチ」が必要で、チェックリス

トの設問内容を、「本人に聞いてみる」や「チームで行う」等の言葉を入れるほうがよい。「(本人の意思をどうすればわかるのだろうか」と、みんなで考えることが大切である。

Dさん：「人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト」について。
「先生たちのコミュニケーションが取れていない」「前年度の個別教育計画を読んでいない」などの項目にショックを受けた。養護学校のいい点は、複数の先生がみてくれること。それが活かされていないのは残念。「一人の先生に伝えたことは、他の先生にも伝わっている」と思っている。

副校長：背景としてはたくさんあるが、様々な働き方の教員がいることで、「勤務時間がさまざま」になりコミュニケーションをとる時間を持つことが難しいなどが挙げられる。学校の課題として解決に向けて知恵を出していかなければいけない。

B教諭：コミュニケーションについては、児童生徒を下校させた後に教室でほとんどのクラスが話し合いや、その日の記録について話し合っている。

Eさん：そうであるとする、アンケートに「否定的」な回答をしている先生が、どの部分をそう思っているか深める必要がある。

教頭：アンケートに否定的な回答をした先生の思いを知ることが必要。子供の必要な情報を共有していくことが大切である。

4 学校予算・学校施設及び設備等の管理及び整備について（事務長より説明）

※本件はこの会議で承認される事項。第1回目で提案できなかったため、今回提案する。

※予算は承認された。

全体を通して

Fさん：地域の住人に、鎌倉養護は「自分たちの学校である」という意識を持ってもらうことが大切。学校に愛着があれば、学校を大切に思ってくれる。同じように、学校の教員も地域に出ていき、地域を「大切なもの」と思うことが必要。

教頭：学校は、「地域の学校」という意識をもつことが大切。

Gさん：「医療ケア児支援法」が制定された。今後、地域の小学校にも医療ケア児の受け入れが浸透してくるかもしれない。その時は、鎌倉養護から様々な助言を得ることもあると思われる。

校長：現在は地域支援が巡回指導などで、対応している。もしそういう話があれば、地域支援や医ケアに詳しい教員等が対応することもある。

Hさん：インクルーシブ推進校に通っている生徒の保護者と話す機会があり、高校卒業後の進路について不安を持っていた。学校も開設されたばかりで卒業した先輩もなく、様子を聞ける人もいないとのことだった。障害が軽いので、いままでサービスを受けたこともない。

軽度のお子さんは、高校卒業後が大変そうである。

Iさん：小中学校にも様々な児童生徒がおり、鎌倉養護や他の養護が学校に来て相談に乗ってもらい、さまざまなノウハウを教えてもらっている。こちらも、そのノウハウを生徒や保護者にフィードバックしていくが大切だと思っている。

Jさん：今年度初めから、鎌倉養護には何回も来校してもらっている。引続き、いろいろな関係を築いていきたいと思う。

Kさん：現在、市の障害者支援協議会では、「障害」「高齢」などの分野で相談を区切るのではなく、多種多様な相談に応じていこうとなっている。来週土曜日にラグビーの研修会を鎌倉養護で行う。行政をどのように巻き込んでいくか、考えていきたい。

Lさん：どちらの分科会についても、「つながりをどう作っていくか」が大切である。

学校と関係機関が、児童生徒と保護者を中心につなぐを増やす機会をもっと作る必要があると感じる。

中間評価の中で様々なことが実践されている。鎌倉養護が学区としている広い範囲で、鎌倉養護が取り組む具体策を皆さんと共有できるように情報を発信していけるとよい。

5 連絡

副校長より

1/27 に各部会を行う。部会の持ち方については、今後相談していく。